

広島県中小企業団体中央会 2015年8月分情報連絡一覧表

(食料品)

●食料品

中国醤油醸造協同組合

8月の出荷量は前月比9.6%増加、前年同月比22.8%減少、売上高は前月比8.0%増加、前年同月比24.1%減少となった。

(木材・木製品)

●木材・木製品

福山木材協同組合

先行き不透明感が漂っている。

広島県木材協同組合連合会

平成27年7月の全国新設住宅着工数は78,263戸で、前年同月比では7.4%増加となった。また、季節調整済年率換算値では91.4万戸(前月比11.5%減少)となった。利用関係別にみると、持家は25,396戸で前年同月比8.0%増加、貸家は33,977戸で前年同月比18.7%増加、分譲住宅は18,239戸で前年同月比9.0%減少となった。なお、木造住宅着工数は43,875戸で、前年同月比8.0%増加となった。

住宅着工の動向については、こここのところ5ヶ月連続の増加となっており、昨年4月の消費税増税前の駆け込み需要の反動減の影響が薄れ、持ち直していると思われる。反動減の影響が大きかった持家も前年同月比で3ヶ月連続の増加となり、今般の経済対策等の効果の表れだと思われるが、引き続き今後の動向をしっかりと注視する必要がある。

こうした全国の動きに対し、広島県内の着工数は1,196戸で前年同月比0.7%の減少となった。このうち、持家が476戸で前年同月比4.4%の増加、貸家は383戸で前年同月比6.4%の減少となっている。また地域別では、広島市は着工戸数505戸で8.4%増加、呉市は78戸で14.7%増加、尾道市は86戸で168.8%増加の一方、福山市は着工戸数194戸で42.1%減少となるなど、徐々に回復の兆しが見られた先月に対し今月の回復は十分とは言えず、組合員からの聴き取りでも、経営状況は依然厳しく、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

(化学・ゴム)

●工業用ゴム製品

中国ゴム工業協同組合

円安の進行にもかかわらず、国内景況感の改善は感じられず、特に自動車業界においては、自動車メーカーの好決算に対し部品メーカーは国内生産台数減、プライスダウン要請や原材料高、人件費の高騰を受け、大変厳しい状況にある。昨今の円安効果には疑問を感じている。今後アメリカの金利の引き上げが実施されるとさらなる円安状況を招き、国内物価上昇、国際的信認低下が起きる可能性も考えられ、安心して国内で雇用拡大、投資拡大をする雰囲気ではない。さらに、最近の中国における株安から始まる中国経済のバブル崩壊の懸念が現実味をおびてきており、景況の先行き感は誠に不透明である。

●プラスチック製品製造業

広島県プラスチック工業会

8月は、全体的に売上は下降傾向にある。9月以降、自動車関連は増産のため、売上は増加傾向が予想される。まだまだ消費財市場への販売に勢いは感じられない状況である。

(窯業・土石製品)

●窯業・土石製品

広島地区生コンクリート協同組合

出荷状況(24工場)

27年8月 2,561 m³ (対前年比 4.1%減少)

27年7月 2,945 m³

26年8月 2,669 m³

(鉄鋼・金属製品)

●鉄鋼業

軋鉄鋼協同組合連合会

人材の確保が難しくなっている。熟練者は高齢化が進み、定年で辞めたりしており、一方で若年者は異業種から建設関係へ流れているとの声も聞こえてくる。

(一般機器)

●一般機械器具

協同組合三菱広島協力会

広島県西部観音地区においては、コンプレッサ関係、製鉄関係、運搬機関係共に低操業のため、それに伴い協力会社各社の操業も低調である。

江波地区においては、部品の納入遅れの影響で、納期が切迫している。それに伴い、協力会社各社の操業の山谷が激しい状況にある。

広島県東部機械金属工業協同組合

今月は、前月比 8%減少、前年同月比 0.2%減少となった。

(電気機器)

●電気機械器具

(電気) 広島県東部機械金属工業協同組合

今月は、前月比 3%減少、前年同月比変化なしとなった。稼働日数が少なかったことと、棚卸しの影響であると思われる。

輸出物件が減少している。人の集まりがよくない。特にパートタイマーの集まりが悪い。賃金の高騰が続いているので、収益や人員確保に大きな問題がでてくる。賃金の高騰の原因となっているため、人材派遣会社の規制が必要だと思う。人材確保の課題が鮮明である。省エネルギー補助金を増やしてほしい。

(輸送用機器)

●輸送用機械器具(自動車)

東友会協同組合

8月の国内自動車販売台数は全需が 327 千台、前年同月比 1.9%減少と 8ヶ月連続の前年割れとなった。登録車は前年比 2.3%増加と 2ヶ月振りの前年越え、軽自動車は 8.8%減少と 8ヶ月連続の前年割れとなった。マツダ車は 25.4%増加と 6ヶ月連続の前年超えとなった。

アメリカの7月の全需は 1,511 千台で前年同月比 5.3%増加と 17ヶ月連続の前年越え。マツダ車は同 7.1%減少と 2ヶ月振りの前年割れとなった。

欧州の7月の全需は 1,320 千台で、前年同月比 2.0%増加と 2ヶ月連続の前年越えとなった。マツダ車も同 15.4%増加と 2ヶ月連続の前年越えとなった。

中国の7月の全需は 1,704 千台で、前年同月比 5.3%増加。マツダ車は 3.7%増加と 6ヶ月連続の前年超えとなった。

上記各地域の状況下、マツダ車の7月の海外販売合計台数は 105 千台、前年同月比 8.1%増

加で25ヶ月連続の前年越えとなった。

マツダの輸出動向については、前年比14.5%増加と12ヶ月振りの前年越えとなった。

マツダの7月の国内生産台数は、前年同月比8.7%増加と2ヶ月連続の前年越えとなった。

●輸送用機械器具（造船）

（社）中国小型船舶工業会

中小造船業については、前月と大きな変化はない。

中国地区造船協議会

県内2,500総トン以上の平成27年8月の船舶建造許可実績は7隻323,400総トン（前月3隻132,340総トン、前年同月2隻76,700総トン）であった。なお、このうち6隻が貨物船、1隻が油槽船で全て輸出船となっている。

●輸送用機械器具（造船関連団地）

呉鉄工業団地協同組合

原材料の高騰により、収益性が悪化している。

（その他）

●家具・装備品

広島家具工業協同組合

ベッド、ダイニング関係については、前年比増加となっているが、応接、箱物は苦戦している。昨年価格改定をした組合員も数社いるが、円安により資材関係が高騰しており、再度価格見直しを検討している組合員もいるようである。円も110円台で落ち着いてほしい。

（卸売業）

●卸売業（総合）

協同組合広島総合卸センター

中国からの豪華客船の広島寄港による経済効果は期待外れとなった模様で、管内消費動向は概ね横ばいで推移している。原油安からガソリン価格は値下げ傾向にあるが、トラック不足から運送コストは上昇傾向にある。

「資材関連」においては、住宅投資・設備投資はやや持ち直しの傾向にある。原材料費、人件費は高騰しているが、価格転嫁が進んでおり、収益面は改善基調である。

「食品」においては、7、8月の天候が良好であったため、売上は好調であった。

「繊維」においては、夏らしい天候が続き、小売店の売れ行きが好調であった。ただし、エンドユーザーの消費活動に力強さがなく、秋冬物の販売はやや不安視している。

「雑貨」においては、外国人の爆買いが生活雑貨にも及んできている。外国人商社が直接卸業者へ買い付けに来ており、紙おむつ、ナプキン、マスク等においては品薄感がでてきている。

●卸売業（電設資材）

広島県電設資材卸業協同組合

民間市場では、大型ショッピングセンターの出店に伴い、テナントのリニューアルが増えたため、仕事量は若干増加している。今後の課題は人材不足が考えられそうである。

住宅市場においては、広島県住宅着工状況(6月)によると、総戸数が対前年比14.6%増加、内訳としては持家4.7%増加、貸家14.5%増加、分譲28.7%増加と今後の需要増に期待が持てる。

●卸売業（家具）

リビズ株式会社

地域振興券の恩恵を受ける店舗があった。

●卸売業（畳・敷物）

広島県藁製品商業協同組合

国内では、11月頃植え付ける八月苗の準備が始まっている。一方、畳表の製織では古物を中心に新草での製織も行われている。相場は横ばいで推移している。9月～10月にかけては各地で展示会が開催され、それを受けて品物が活発に動くものと見ている。

中国産の畳表の動向は、高値横ばいで推移している。製織は古物が主体で新草の製織は古物の「い草」を織りきってから着手する模様である。

藁業界全般に目を向けると、化学表の進出や、洋風建築で畳の部屋が減少していることもあり、需要が減少している。また、畳替えの需要はまずまずの状況であり、市場では安売り競争を呈しているのが現状のようである。

（小売業）

●各種商品小売業

チューリップチェーン商業協同組合

今月の売上は、対前年同月比増加、前月比減少となった。外売りの割合が高い店舗が多いため、8月は学校が夏休み等の影響もあり、前月比減少となった。盆期の販売については、帰省される方が年々減少し、また物日（お盆等）の買いものは車で街へ出かけ、大型店で全て買いものをする傾向が強いため、我々零細小売店ではこの期間の売上が特に減少している。また、8月上旬はプレミアム商品券効果により、売上は好調であった。しかし、我々青果物が主力の小売店では売上は増加しても、利益面においては青果の仕入代金は5日毎、商品券の換金は1ヶ月後であり、資金繰りの悪化が懸念される。こうしたことへの国の配慮を期待したい。

●各種商品小売業

協同組合三次ショッピングセンター

来店客数、売上共に前年同月比で増加している。要因は不明ではあるが、前年が悪すぎたとの見方もできる。

●家庭用電気機械器具小売

広島県電器商業組合

8月度の販売実績は前年同月比3.1%減少となった。商品別では、薄型テレビ前年同月比2.3%減少、BDレコーダー同9.9%減少、音響・車載機器同10.3%減少、冷蔵庫同2.3%増加、洗濯機同0.7%減少、エアコン同2.4%減少、エコキュート同1.4%増加、IHクッキングヒーター同3.7%増加となった。

エアコンが好調である。薄型テレビ48型以上の大型画面の販売に動きが出始めた。住宅の増改築が回復基調であることに伴い、IHも少し盛り返している。ただし、将来的に見て、業況が良くなる要因は特に見当たらない。

（商店街）

商店街（各種商品小売業）

呉本通商店街振興組合

呉市のプレミアム商品券は12万冊発行に14万冊の応募があり、抽選となった。飲食業は海自カレーなどでお客（旅行者など）が増加したが、総じて売上に目立った増減は見られない。

（サービス業）

●自動車整備業

広島市自動車整備団地協同組合

車検台数は前月比9.7%減少、前年同月比8.3%増加。車検場収入は前月比10.4%減少、前年

同月比 7.5%増加。重量税・登録印紙の売上は前月比 23.5%減少、前年同月比 2.4%の増加となっている。

●広告業

広島県広告美術協同組合連合会

前月同様、看板の危険性に注目が集まり、安価なものから安全性を重視し、多少費用をかける傾向にある。単価は若干上昇している。

●警備業

広島県警備業協同組合

人材不足のため、労働環境の整備が必要であると感じている。

●情報サービス

(社) 広島県情報産業協会

仕事案件はあるが、技術者がいないという状況が続いている。以前よりは、案件数も落ち着きつつあるため、各社今のうちに仕事をとっていきたいとの思いはある。

来春の卒業生及び既卒者を対象とした企業説明会にいくつか参加した中で、参加企業の業種が多種にわたっており、IT企業へ話を聞きに訪れた求職者は予想をはるかに下回るものであった。そこで、できればIT企業に特化又はIT関連の職種を求人されている企業を集めた企業説明会の企画をお願いしたい。

(建設業)

●工事業

神辺建設業協同組合

この10月よりマイナンバー制度が導入されるが、具体的にどのように準備しておけばよいか不明な部分もあるため、中小企業向け説明会の機会をもっと増やしてほしい。

福山地区電気工事業協同組合

8月における工事受注件数は、前月比19%減少、前年同月比5%増加となった。

今月は、電化住宅への新築・リフォームは減少した。太陽光発電の申請状況は上期は減少が続いている。8月は猛暑が続き、また集中豪雨で全国的に被害が発生したため、住宅の新築・リフォームは控える傾向にあったようである。

広島県室内装飾事業協同組合

8月の売上については、前月比46%減少、前年同月比35%減少となっている。

前月比で見るとカーテン工事が41%減少、敷物工事は73%減少、壁装工事は37%減少と大きく減少した。

前年同月比では、カーテン工事については26%減少と大きく落ち込んだが、敷物工事は19%増加、壁装工事は42%減少となった。

工事物件については、前年累計で4%減少とほぼ横ばいであるが、カーテン工事については13%減少と大きく減少している。工事物件はあるものの、内装工事全体では低調な推移であった。依然、企業間格差は大きくなっている。

(運輸業)

●道路貨物運送業

広島輸送ターミナル協同組合

燃料価格が落ち着きを取り戻しつつあり、今後の収益改善に寄与すると思われる。

荷動きも鈍いが、車輛も少なくなっている。

松永地区トラック事業協同組合

8月の貨物輸送量は、前年比ほぼ横ばいであった。具体的には8月上旬の猛暑の影響で、

農産物の出荷は大幅に減少したが、夏物商品の出荷が好調で、貨物輸送量全体で見ると昨年並みとなった。個人消費は、消費税増税に伴う駆け込み需要の反動減から未だ脱していない。

8月は軽油価格が1Lあたり5円から8円近く下がり、以前よりは楽にはなったが、軽油価格の経営に与える影響は大きく、毎年秋から冬にかけて軽油価格が上がってくる傾向にあるため、このまま推移するとは思えない。

人材不足の状態は恒常的で、募集をかけても全く反応がない。若手が入ってこないと業界としては高齢化が進んでいくのみである。

広島県ロジネット協同組合

8月は、例年貨物量が少ない時期となっているが、お盆明け以降動きが見られた。紙関連・飲料関連については水準以上に動きが良く、全体的には前年とほぼ同じような物量で推移したようである。軽油価格は中国経済の低迷により、原油価格が大幅値下げとなった。リーマンショック以降最大の値下げ幅ではないだろうか。予想に反した値下げで反発の恐れはあるが、業界では、国内メーカーの荷動きにも期待したい。

●水運業

全国内航タンカー海運組合中国支部

船員の高齢化が進み、船員不足である。若年船員が育たない。運賃、用船料の改善が見られない。

(その他)

●不動産業

広島県不動産評価システム協同組合

前月比、前年同月比とも特に変化は見られない。最近のチャイナショックの影響からか、不動産市場にも投資目的物件に様子見の気配がうかがわれる。